

第IV章 インターネットを利用した情報教育の講習会について

―「障害のある子どもの情報教育とその指導」をとおして―

小野龍智(教育研修情報部)

1. はじめに

国立特殊教育総合研究所では福岡教育大学障害児教育講座及び障害児治療教育センターとの共催で平成15年度より情報教育の講習会を実施してきた。この講習会を企画するにあたって、各県が行っている特殊教育を担当する教員を主たる対象として情報教育を取り上げている研修講座は少なく[1]、しかも障害のある子どもの指導に特化した内容ではなくコンピュータの基礎的な内容を扱う講座が多く、県の段階での研修は十分とは言えない状況が推察された。このような状況を改善していくためには情報教育に関する研修について、どのような研修内容や方法が有効なのか検討する必要がある。

本講習会を計画するにあたっては、研修のために勤務を離れることができない教員の実情を考慮し、夏季休業中に地方での開催を検討した。その結果、福岡教育大学との共催という形で計画し、会場を大学内に設定して九州地方・山口県の特殊教育諸学校の教員を対象に講習会を実施してきた。

講習会では特殊教育における情報教育に必要と考えられる内容を取り入れ、また講習会の持ち方にも情報技術を積極的に利用してきた。本稿では3年間の講習会の概要について報告することにした。

2. 講習会の運営方針

1) 参加のしやすさ

県が行っている研修は比較的短い受講期間であるが、前述したとおり特殊教育の指導法に関する内容を扱っていることは少なく、県以外が実施している研修で特殊教育の内容を扱っている研修は2週間程度でありしかも中央での研修が大部分であった。このため気軽に研修を受けられる状況にはなく、受講のしやすい講習会が求められているのではないかと考えた。そこで期間を3日間、計15時間と設定した。また日ごとにテーマを設定し、平成15年に本講習会を計画した当初は、3日間の設定のうち1日ごとに参加の希望を受け付けることにした。平成16年度以降は本講習会を福岡教育大学の公開講座として位置づけ、募集関係の事務手続きを大学事務が行うようになったこともあり、3日間をとおしての受講のみを受け付けることになった。

募集は九州地区・山口県の特殊教育諸学校の教員を対象に行った。会場を宗像市にある福岡教育大学としているが、九州地区・山口県の範囲だと受講するにしても参加しやすいのではないかと考えられた。

2) 大学との共催

当初は複数の大学との開催を計画していたが、賛同が得られた福岡教育大学との共催という形で実施している。福岡教育大学は教員養成の機関であるが教員の研修についても公開講座や県の免許法認定講座などの取組があり、複数の県からの教員の参加についても実績がある。本稿集会でも段階的に地域の講師の配分を増やし、将来的に大学単独での実施を視野に入れると、地域の情報教育の推進を担う機関としての期待もできる。

3) 情報技術の活用

本講習会では、講習内容として情報技術を取り上げるだけでなく、講習会の持ち方についても情報技術を積極的に取り入れてきた。

平成 15 年度は開催の案内と要項を各特殊教育諸学校にメールで連絡し、応募は受付用のフォームを Web 上に作成し、その Web ページからのみ受け付けるようにした。これは、対象を情報教育の実践のある者を想定しパソコンの基本操作は行えることを前提として考えていたこともあり、インターネット経由での案内で十分ではないかと考えたためである。

また、平成 15 年度は講義の中でもテレビ会議システムを使って研究所から遠隔での講義を行った。現在はほとんどの講義が対面で行われているが、一部の大学や私塾では遠隔での講義も行われており、将来はこのような講義の形態が普及する可能性がある。テレビ会議を使った講義が普及してきた時の問題点を探るため、一部の講義についてテレビ会議システムを採用することにした。

平成 16 年度からは e ラーニングに取り組み、研究所内に設置した WBT(Web based training)サーバを使って事前に講義内容を学習できるようにした。この e ラーニングシステムでは、各講師毎に学習用コンテンツを用意した。受講者に対して個別に ID とパスワードを発行して、インターネット経由で WBT サーバにアクセスし、用意されたコンテンツを利用することができる。

図 3 は WBT サーバにログインした後の画面である。ログインした ID で受講できる講義が画面に表示されている。講義名（サーバ上では「講座」と表記）の右側には受講の状態が示されており、一度もアクセスしていない状態では、「未受講」と表示される。

右の画面は、富士通株式会社の e ラーニングシステム「Internet Navigware (インターネットナビウェア)」のもので、Navigware は富士通株式会社の登録商標です。

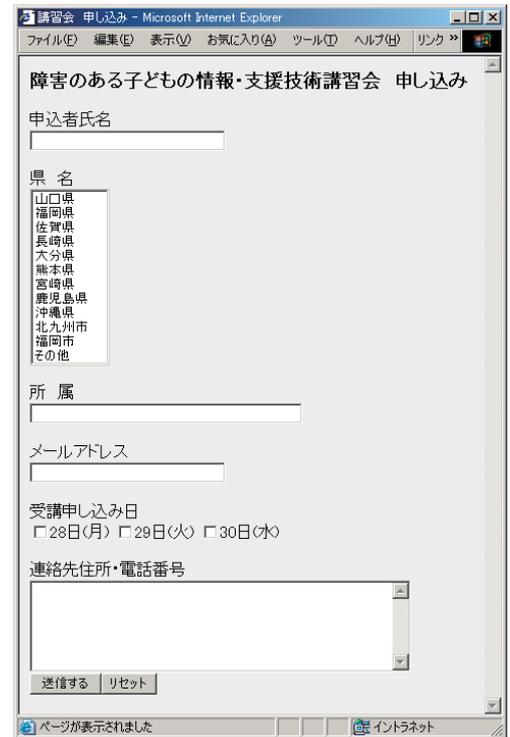


図 1 受付用 Web ページ

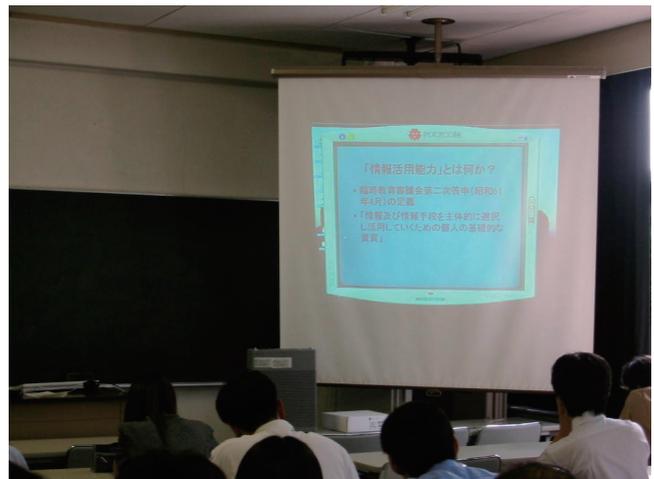


図 2 テレビ会議を使った講義の様子

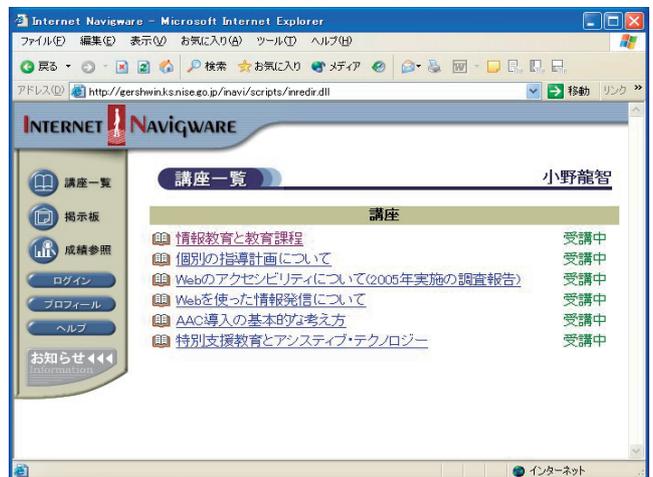


図 3 WBT サーバログイン後の画面



図4 受講開始時の画面



図5 講義の各章の選択画面

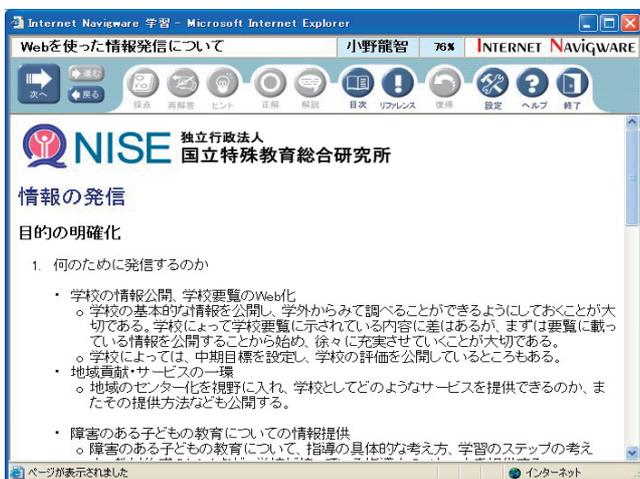


図6 学習用コンテンツ

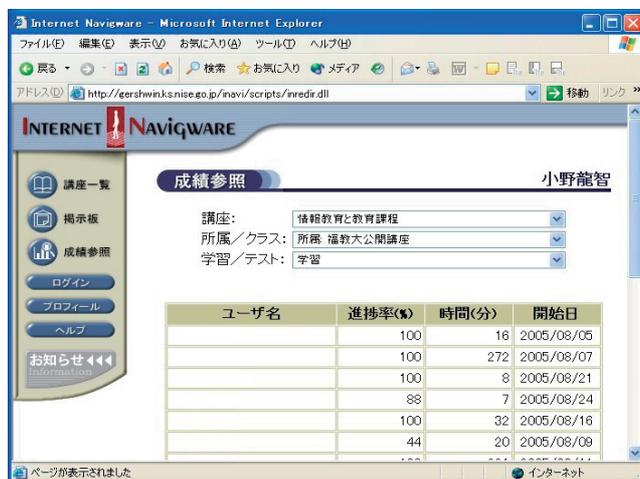


図7 学習管理の画面

図4は、受講する講義を選択した後の画面である。「学習」と書かれたリンクを選択すると、図5の画面に移り、どの章を学習するのか選択することができる。学習は途中で一時休止することは多々あるが、そのような場合でも途中から学習内容を選ぶことができるようになっている。図6は学習の内容が書かれた画面である。

講義毎にレポートの提出を設定しているが、図4の「レポート」と書かれたリンクからはレポートの内容や提出方法についての記述を読むことができる。今回は富士通のeラーニングシステムを使用した。受講者毎に学習の進捗状況や成績を管理する機能がある(図7参照)。この画面では進捗率や学習した時間、学習を開始した日を示している。

3. 講習会の実施

1) 実施計画

- ・ 期間 夏季休業期間中の3日間
- ・ 会場 福岡教育大学
- ・ 受講者 盲・ろう・養護学校等において情報教育の実践の経験のある方
教育センター等において特殊教育を担当している方
- ・ その他 養護学校教諭一種免許状取得のための単位1単位が修得可能

表1 平成17年度「障害のある子どもの情報教育とその指導法」講義内容

期日	時 間	講 義 内 容	講 師
8 月 22 日 (月)	8:45 ~ 9:15	受 付	
	9:15 ~ 9:30	開講・オリエンテーション	
	9:30 ~ 12:00	情報教育と教育課程 情報教育の基本的な観点について整理し、教育課程においてどのように位置づけて行うか、障害のある子どもの教育においてどのような点が課題となるかについて述べる。	教育研修情報部 総括主任研究官 渡邊 章
	13:30 ~ 16:00	個別の指導計画について 個別の指導計画の趣旨、作成における全般的留意事項、重複障害者の個別の指導計画、自立活動と個別の指導計画、自立活動の内容と情報教育の関連について研修を行う	福岡教育大学 教授 木船憲幸
	16:00 ~ 16:30	アンケート記入・事務連絡	
8 月 23 日 (火)	9:00 ~ 9:30	受 付	
	9:30 ~ 12:00	Webのアクセシビリティについて 誰もが利用できるWebページとはどんなものか、どうすればアクセシブルなWebページが作れるのかについて述べる。	教育支援研究部 主任研究官 渡辺哲也
	13:30 ~ 16:00	Webを使った情報発信について 本講座では「Webのアクセシビリティについて」の内容に沿って、実際にツールを用いてWebページを設計、作成する。	教育研修情報部 主任研究官 小野龍智
	16:00 ~ 16:30	アンケート記入・事務連絡	
8 月 24 日 (水)	9:00 ~ 9:30	受 付	
	9:30 ~ 12:00	AAC導入の基本的考え方 コミュニケーションの実用性と伝達効率を上げる支援手段としてのAACを導入する場合の基本概念について述べる。	北九州養護学校 教諭 本田誠三
	13:30 ~ 16:00	特別支援教育とアシスティブ・テクノロジー 特別な教育ニーズのある児童生徒が学習参加や社会参加を行う上で様々な支援が必要となる。本講座では情報関連支援機器等の使用の理念と実際について研修を行う。	博多高等学園 教諭 福島 勇
	16:00 ~ 16:30	アンケート記入・閉講	
	16:00 ~ 17:00	試験（免許用単位取得希望者のみ）	

4. まとめ

1) 講義内容

本講習会を最初に計画した時に、講義の持ち方として、講義ではあるが実習的な要素を含むように考えた。これはより興味を持って研修を進めるためには講義を聞くだけでなく、より実践的な内容を盛り込む必要があると考えたためである。講義を聞くだけの内容だと、通信による研修のみで行うことも考えられ、今後は集合して行う研修には集合して行う必要性が求められるのではないかと考えている。

この3年間の講習会の事後アンケートからは、講義内容については概ね良好な感想が得られた。今後校内で研修する必要があると考えられる内容を問うと、自分が受講した内容を必要だと挙げている傾向が感じられた。講義を受けることで、その講義内容に対する問題意識を持つようになったのではないかと考えている。



図8 講義の様子

2) 情報技術の活用

平成15年度はテレビ会議システム、平成16・17年度はeラーニングシステムを導入してきたが、研修の中でこのような情報技術を積極的に活用したことについては、賛否両論があった。テレビ会議システムを使った時に、最初の10分程度音声とぎれる場面があったが、講義で話している内容が聞き取りにくかったとの感想が寄せられた。また初めてテレビ会議システムを使って講義を受けてよかったとの感想も得られたが、今後は音声が確実に聞き取れるように配慮する必要がある。

eラーニングの実施については、自分が受講するのはよいが、他の人にはあまり勧めないといった結果となった。またインターネットを使っての学習にはまだ馴染みが薄く、戸惑ったという意見も聞かれた。今後はeラーニングによる研修というスタイルにも啓蒙を図っていく必要がある。

WBTサーバには受講者のアクセス状況が残るが、今回必ずしも学習状況を表していなかった。印刷して学習していた者やアクセス後、ログアウトせずにブラウザを閉じたためサーバにはアクセス中として記録されてしまった者がいたためである。そのためアクセス時間は短かったのによく講義内容を把握している者がいたり、アクセス時間は長いのに内容を把握していない者がいたりした。実際、講義を受けるときにeラーニングのコンテンツを印刷して持ってきている者もいた。またアクセス時間にも個人毎にばらつきが見られた。免許申請の関係もあり、学習の評価は受講後にテストをしたが、WBTサーバによる学習状況の把握が今後の課題である。

文 献

- [1] 中村均, 棟方哲弥, 大杉成喜, 小孫康平, 特殊教育センター等における情報教育に関連した取組の現状, 国立特殊教育総合研究所紀要第29巻, pp.105-115, 2002.
- [2] 小野龍智, 大杉成喜, 中村均, 特殊教育における情報教育の研修講座の試み, 国立特殊教育総合研究所研究紀要第31巻 pp.127-139, 2004.
- [3] 小野龍智, 平成16年度「障害のある子どもの情報教育とその指導法」における取組, 平成16年度プロジェクト研究報告書「障害のある児童生徒等の教育の総合的情報提供体制の構築と活用に関する実際的研究」, 国立特殊教育総合研究所, 特殊研C-51, pp.37-43, 2006.